

## 平成24年度 傾斜的研究費(全学分) 研究環 研究報告書

研究代表者 所属	カガナ	ニシヤマユウジ	職	准教授	
首都大学東京・人文科学研究科	研究代表者氏名	西山雄二			
研究分担者 所属	研究分担者氏名	岡本 賢吾	職	教授	
		高桑 史子		教授	
		綾部 真雄		教授	
		左古 輝人		准教授	
		山下 祐介		准教授	
		野元 弘幸		准教授	
		荒木 典子		准教授	
		山本 潤		准教授	
		赤塚 若樹		准教授	
		小林康夫		教授	
		藤田尚志		講師	

研究環 組織名	カタストロフィと人文学——東日本大震災以後の人間・自然・文明		
HP	*本研究環組織のHPを作成している場合は、そのURLをご記入下さい。	<a href="http://www.comp.tmu.ac.jp/nishiyama/Catastrophie/pg155.htm">http://www.comp.tmu.ac.jp/nishiyama/Catastrophie/pg155.htm</a>	
研究実績の概要(600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。) 本学HPでの公開の可否 可・否			
<p>2011年、日本社会は震災・津波・原発という、人類史上初の三重のカタストロフィ(破局)を経験した。カタストロフィ(catastrophe)はギリシア語源では「転覆」を含意するが、日本社会は「3・11」によってまさに転覆し、大きな転換期を迎えた。破局的状況は、人間と自然、人間と文明、人間と歴史といった諸限界が露わになり、それらの概念や現実が根本的に再考される歴史的契機であるが、本共同研究では、主に人文学の文献や理論、実地調査にもとづいて、カタストロフィと人間の関係を根本的に問うてきた。2012年度は、国際セミナーを2回実施した。ジゼル・ベルクマン氏はカタストロフィの時間性について講演をし、福島事故以後の不安は「点としての終わり」ではなく、「厚みのある持続する終わりの時間性」を私たちに強いていると説いた。ゾラン・ディミッチ氏にはカタストロフィと数量化の問題について講演していただいた。途方もない破局的出来事は数量化によってその規模を想像するしかないが、そのとき私たちの人間性もまた失われてしまう。ディミッチ氏は古代ギリシア哲学の知見から、破局を前にした人間性の保持を主張した。また、東北大震災を描いた記録映画「無常素描」を上映し、映画研究者・三浦哲哉氏を囲んで本研究メンバー3名が、カタストロフィの表象と記録について討論をおこない、「現地の時間のゆらぎ」と向き合う映画的经验の意義を確認した。本年度の総括として、3月にパリで国際会議を主催し、仏・英の研究者とともに議論をおこなった。グローバル経済体制における破局、タイの少数民族・リス族が被った民族解体という〈緩やかな破局〉、ユゴーやブランショらの文学的言説を通して見る近代という時代と破局の同時性、カミュ『ペスト』との類比から考察される3.11の語り口、安全な場所へ移動し脱出する者が感じる後ろめたさの実存的分析などについて発表がおこなわれた。これはフランスで開催された人文系では初の3.11に関する国際会議であり、多くの聴衆と研究者との学術交流によって研究環にふさわしい成果となった。</p>			

## 平成24年度 傾斜的研究費(全学分) 研究環 研究報告書

学会発表(発表題目、発表大会名、年月を記入)		本学HPでの公開の可否 <input checked="" type="radio"/> 可 ・ 否			
とくになし					
論文発表又は著書発行(発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)		本学HPでの公開の可否 <input checked="" type="radio"/> 可 ・ 否			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西山雄二編『人文学と制度』、未來社、2013年。</li> <li>・西山雄二「『3.11』以後の大学の状況と展望」、加藤泰史編『大学と学問の再編成に向けて』、行路社、2013年。</li> <li>・山下祐介『東北発の震災論——周辺から広域システムを考える』、ちくま新書、2013年。</li> <li>・山下祐介ほか『3・11以後 何が変わらないのか』、岩波ブックレット、2013年。</li> <li>・山下祐介「東京の震災論／東北の震災論——福島第一原発事故をめぐって」、『「辺境」からはじまる—東京/東北論』、明石書店、2012年。</li> <li>・高桑史子編著『災害復興と防災に向けて 首都大学東京大学院人文科学研究科社会人類学専攻 2011年度高桑ゼミ論集』、2012年。</li> <li>・野元弘幸「大船渡市赤崎地区公民館の避難・復旧経験に学ぶ」、石井山竜一編『東日本大震災と社会教育 3・11後の世界とむきあう学習を拓く』国土社、2012年4月、53-59頁。</li> <li>・野元弘幸「東日本大震災における災害ボランティア活動の現状と課題」、『月刊社会教育』国土社、2012年11月号、4-11頁。</li> <li>・寺村政男、荒木典子、鋤田智彦「『満漢合璧西廂記』の総合的研究 その3」、『水門』24号、2012年10月。</li> <li>・荒木典子「疑問語気助詞“嗎”“麼”について」『太田斎 古屋昭弘 両教授還暦記念中国語学論集』、2013年3月。</li> </ul>					
学術会議開催実績報告					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年7月18日、首都大学東京(南大沢)、国際セミナー「カタストロフィの思想」、ジゼル・ベルクマン(パリ・国際哲学コレージュ)、参加対象者:教員・学生、一般市民、参加者数:50名</li> <li>・2012年7月23日、東北大学、国際セミナー「カタストロフィの思想」、ジゼル・ベルクマン(パリ・国際哲学コレージュ)、参加対象者:教員・学生、一般市民、参加者数:60名</li> <li>・2012年12月5日、首都大学東京(南大沢キャンパス)、国際セミナー「カタストロフィの思想——破局と人間性をめぐって」、ゾラン・デイミッチ(セルビア・ニシュ大学)、参加対象者:教員・学生、参加者数:40名</li> <li>・2013年3月15日、ハインリヒ・ハイネ館、国際シンポジウム「カタストロフィの哲学——フクシマ以後、人文学を再考する」、登壇者=左古輝人(首都大学東京)、綾部真雄(首都大学東京)、マイク・ホランド(オックスフォード大学)、アラン=マルク・リュウ(リヨン大学)、藤田尚志(九州産業大学)、参加対象者:教員・学生、一般市民、参加者数:70名</li> <li>・2013年3月16日、パリ日本文化会館、国際シンポジウム「カタストロフィの哲学——フクシマ以後、人文学を再考する」、登壇者=ジャン=リュック・ナンシー(ストラスブール大学名誉教授)、ミシェル・ドゥギー(パリ第八大学名誉教授)、小林康夫(東京大学)、西山雄二(首都大学東京)、ジゼル・ベルクマン(国際哲学コレージュ)、参加対象</li> </ul>					
科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
<p>西山雄二(研究代表者)、基盤研究B「ドイツ、フランス、アメリカの哲学における人文学の淵源と拡張可能性の包括的研究」→不採択</p> <p>高桑史子(研究代表)、基盤研究(C)継続「過疎高齢海村・山村における村落解体阻止と脆弱性克服に関する社会人類学的研究」(平成23年度~25年度)</p>					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年5月30日、首都大学東京(南大沢)、映画「無常素描」上映・討論会、討論者=三浦哲哉(映画研究者)、乾彰夫(首都大学東京)、山下祐介(首都大学東京)、西山雄二(首都大学東京)、参加対象者:教職員、学生、一般市民、参加者数:100名</li> <li>・2013年3月29日、ブックファースト新宿店、「カタストロフィーと人文学」、討論者=小林康夫、西山雄二、参加対象者:一般市民、参加者数:30名</li> <li>・2012年10月13日、相模原市橋本公民館、講義「3・11後の世界と私たちの学び—公民館での学習の意義を考える—」野元弘幸、参加対象者:一般市民、参加者数:30名。</li> <li>・2013年2月6日、川崎市中原市民館、「『3・11』後の市民活動・地域活動~東日本大震災の災害ボランティア活動から~」野元弘幸、参加対象者:一般市民、参加者数:30名。</li> <li>・2013年3月30日、国立市公民館、「&lt;シンポジウム&gt;災害ボランティアの課題と可能性—くにたち市民にできること」野元弘幸、参加対象者:一般市民、参加者数:30名。</li> <li>・2012年11月29日、特定非営利活動法人パルシック、講演「スリランカ南部——津波後と内戦後の漁村」(高桑史子)参</li> </ul>					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
研究分担額					

平成24年度 傾斜的研究費(全学分) 研究環 研究報告書

研究代表者・分担者名	所属	金額(円)
西山雄二	首都大学東京・人文科学研究科	2,779,000